

今から3年前、「自然の叡智」をテーマに、日本国際博覧会「愛・地球博」が愛知県で開催された。当時、愛知県環境部長として指揮を執ったのが、岐阜薬科大学出身の薬剤師でもある稲垣隆司氏。「愛・地球博」は延べ2200万人の入場者を得て、成功裏に終了。2006年4月には、現知事の神田真秋氏から副知事の指名を受け、要職に就いている。自治体行政の中核で活躍する稲垣氏は、実体験をもとに「薬学は理科系の中でも、特に幅広い領域を学ぶ学問。より柔軟な姿勢で、専門分野はもちろん、時事、経済などにも視野を広げ、勉強に取り組んでほしい」と、薬学生にエールを送っている。

専門は深く、常識は幅広く

愛知県副知事 稲垣 隆司氏

稲垣氏は、岐阜県土岐市生まれ。69年に岐阜薬科大学の厚生薬学科を卒業後、国立公衆衛生院（現・国立保健医療科学院）に入り、河川汚染が進んでいた多摩川水系で水管理計画の研究等に従事。「川を再生するため、どのように下水道処理施設を造るか」に取り組んだ。70年には、数少ない環境分野の専門家として請われ、愛知県庁へ。

当時は、現在の環境部の前身の企画部公害課で、主に大気汚染対策に取り組んだ。それから36年、環境行政一筋で「環境部の生き字引」とも言われる存在。環境部時代には県下の環境アセスメントにも従事。「愛・地球博」の開催にも尽力。副知事の立場となっても、環境のエキスパートとして、アフリカ、中近東諸国の環境対策指導などで広く活躍。生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が10年10月に開催されるが、愛知県名古屋市の開催誘致にも成功した。

稲垣氏が、環境への関心を持ちはじめたのは大学3年次。「環境問題に取り組んでいた恩師から大きな影響を受けた」という。地元の石灰岩採掘場周辺の汚染状況や、日本の公害の原点と言われる足尾銅山なども目の当たりにし、大学4年次は環境研究一本で通した。

本来の薬学とは毛色が違って見えるが「大気、水、廃棄物、環境アセスメントなどの環境行政を行う上で化学的、生物的判断は必要。工場等から廃棄される化学物質の分析、周囲の山や川に生息する動植物への影響調査では、薬学というバックグラウンドが大きい。幅広い分野で勉強してきたことが良かった」と振り返る。

大学時代の研究テーマが「水」であったため、入庁後に大気の担当となり戸惑いもあ

たが、「大学時代から環境問題に取り組み、法律や条令なども勉強していたため、新たにまた、勉強してみようという意識を入れた。県に環境専門家がほとんどいない状態で、専門家として頼られたが、その分、学生時代以上に勉強した」と振り返る。

職員時代には狭き門の技術士（環境部門）の国家資格や1級バイオープ計画管理士の資格も取得。ほかにも環境カウンセラーなど、環境関連では十数種類の有資格者だ。公務に追われる毎日。片道1時間の通勤電車を勉強場所に、寸暇を惜しんで勉強したという。

学生に向け「自分の専門は確かに深くやらなければいけないが、一般常識は時事・経済

まで幅広く勉強してほしい」と助言する。特に、環境分野を志す人には「環境は非常に幅広いため、学生時代だけでは十分に勉強できないと思うが、少なくとも化学や物理、あるいは動植物分野の理解も必要。また、環境問題は街づくりと一体であり、福祉や教育、防災など全てつなげていく必要がある」と奥深さを指摘する。環境問題に取り組んできた実体験を振り返り「薬学は他の理学学部よりも柔軟性がある。『専門は深く、常識は広く』を念頭に、常に謙虚な志をもって、多くの分野にチャレンジしてほしい」と、薬学生の幅広い活躍に期待を寄せている。

クローズアップ ヒューマン



日本薬学会編 「病院薬剤師の仕事」

本紙読者にプレゼント

日本薬学会が企画し、東京都病院薬剤師会が著した「高校生にも患者の皆さんにも知ってもらいたい病院薬剤師の仕事」が薬事日報社より発刊された。

大学受験を控え、将来なりたい職業について悩む高校2年生のシルクさんが、市民病院に勤務する病院薬剤師の石座ユカさんに、病院薬剤師の日常的な仕事を分かりやすく説明してもらった形で話が進んでいく。

「病院とは？」から紐解き、病院薬剤師をめぐる環境、実際の仕事内容、病院薬剤師としての心がけ、さらには具体的に進みつつある専門薬剤師の方向性などが紹介される。

現役の薬学生はもとより、薬学部への進

学を考えている高校生、その家族や先生方、さらに患者さんにとっても、病院薬剤師の仕事・役割を知る上で、お奨めの一冊といえる。

なお、本社では薬学生新聞の読者5人に、この本をプレゼントします。Eメール（info@yakuji.co.jp）にて、氏名・所属大学・学年および「病院薬剤師の仕事希望」と明記の上、15日までにご応募下さい。応募者多数の場合は抽選となります。発表は発送をもって替えさせていただきます。



日本薬学会編「健康とくすりシリーズ」

高校生にも患者の皆さんにも知ってもらいたい

病院薬剤師の仕事

本書は、将来薬剤師を目指す高校生とその家族や学校の先生方へ、あるいは現在通院、入院中の患者さんにも知って頂きたい「病院薬剤師という職業」について、高校生が病院薬剤師に話を聞くというスタイルで、日常的に行っている業務の内容や、チーム医療の中での役割などを分かりやすく解説し、病院薬剤師に対する理解を深めて頂くために現場で働く薬剤師らがまとめたものです。

「医薬品のあるところに薬剤師あり」というスローガンの元に、病院薬剤師は患者さんが安心して医薬品を使用して頂けるよう日々最新の知識と技術を学び研鑽しています。平成18年からの薬学教育6年制移行に伴い、現在ではより専門性の高い薬剤師の養成が求められています。

<目次> 1. 病院とは / 2. 病院薬剤師の環境 / 3. 病院薬剤師の仕事の内容 / 4. 病院薬剤師として心がけるもの / 5. これからの病院薬剤師 / 6. 薬学部6年制教育と卒業後の職場フィールド

東京都病院薬剤師会 著

●四六判 102頁 定価 1,050円(税込)

薬事日報社 <http://www.yakuji.co.jp/> 書籍注文専用 FAX 03-3866-8408

